

# THE NMUN KOBE TIMES



Kobe City University of Foreign Studies

## 模擬国連世界大会2日目迎え 各国代表による活発な議論が進む



寒空の下、11月24日の神戸コンベンションセンターでは模擬国連世界大会(NMUN)の白熱した三つのセッション(II-IV)が行われた。世界各地から参加した330人の代表たちは、前日に採択された議題についてのワーキング・ペーパーを仕上げるために議論と交渉に真剣に取り組んだ。代表者たちは似た考えを持つ代表者たちとワーキング・ペーパーを提出するためにワーキング・グループを作った。ワーキング・ペーパーは議長に提出され、採択されたときに決議草案となる。この日は26日までの4日間にわたる会議の中で最長の日となった。代表の中には、存在感を示そうと主導権を取る者もいれば、自分たちの目標に少しずつ近づけようと努力する者もいた。

### 国連総会(GA)

セッションIIは公式協議でのレバノン代表のス

ピーチによって始まった。レバノンは信頼情勢と武装解除、武器原料の保護を目指していると彼は主張した。さらにレバノンは中東非大量破壊兵器地帯をほかの中東諸国と協力して創設しようとしていると主張した。

レバノンに続き、イラン、オーストラリア、モルドバ、ガーナ、アメリカ、ブルキナファソ、スイスの8カ国が自国の立場を表すためのスピーチをした。代表たちは他国と協力し、共に活動するためにお互いの注意を引くよう努力した。たとえばメキシコは、核拡散防止条約のラテンアメリカ地域での採択を支持し、他国の協力を求めた。モルドバも同じく、国際原子力機関(IAEA)との協調に向けて協力を求めた。米国は「原子爆弾が70年前、世界を変えた」という言葉でスピーチをはじめ、他国にこの問題について議論するよう求めた。

(2頁に続く)

(1 頁から続く)

米国はインド、レバノン、アフガニスタン、英国と協力し、その他の国々と情報共有をしたいと述べた。ほかにも二つの非公式協議が行われ、代表たちは考えを共有し、問題を議論した。意見が合わないと思えば、グループを変える代表もいた。

午後のセッション III では、代表たちは自分たちの目標を達成するためにたくさんのワーキング・グループを作ったが、議長は冒頭、実際の国連会議のように決議草案は最終的に一つとすることを勧めた。ワーキング・グループも一つにする方が望ましいと述べた。議長の考えを尊重し、続いて登壇した代表たちは、ワーキング・ペーパー作成の中心となっている国々に自分のグループに参加し、より大きなグループの中で交渉するよう求めた。

最大のグループは、最も包括的な意見を持っていた EU と、非大量破壊兵器地帯を提案した中東グループ、核エネルギーと軍縮、平和構築計画の実施の三つの分野に関する意識の向上と教育を提案し、アルゼンチン、アンゴラ、韓国によって支援されているベネズエラグループ、さらにラテンアメリカ、南アジア、アフリカの国々からなるグループだった。



核拡散防止条約 (NPT) に賛成しない国もあった。というのも、中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカの 5 常任理事国のみが核兵器を所有できることを受け入れられないからである。しかし、セッション IV でスピーチをした国のほとんどは NPT に賛成した。常任理事国は彼らだけのワーキング・グループを作った。常任理事国同士が協力し合うことで、非国家主体が国際的に脅威とならないよう、大量破壊兵器に関するより厳しい協定を阻止しようとしたのである。ギリシャもまた NPT に賛同し、他の代表たちにギリシャのワーキング・グループに参加するように呼びかけた。米国もそのグループに加わった。核物質の平和利用を容認する国もあった。フィンランドは二酸化炭素を減らすために平和利用を提案した。夜までに八つのワーキング・ペーパーが議長に提出された。



### 国連難民高等弁務官 (UNHCR)

午前中のセッション II はアイルランド、スウェーデン、韓国、そしてガーナのスピーチによって幕を開けた。その後会議はコンゴ民主共和国のモーションによって 60 分間中断され、同じ考えを持つ国々とワーキング・グループを作る作業が行われた。

続く公式協議では、イタリアは医療制度に焦点を当てた。健康は子どもの精神的、身体的成長に必要不可欠であるからだ。インドは「我が国では子どもの保護が行き届かない。もし子どもたちが精神医療と教育を受けることができれば、彼らは国際社会に参加しやすくなるだろう」と主張した。

3 度目の公式協議では、スピーチをした四カ国すべてが、国際問題である難民について言及した。米国は、「我々は国際社会としてこの問題を解決できるだろう。そのためにも、国際的に協力し合う必要がある」と主張した。このセッションの最後の公式協議で、すべての国がこの問題を解決するカギは教育であるとした。

UNHCR の代表たちは主に、難民の子どもたちの教育について重要性と必要性を主張した。加えて、紛争によって引き離された子どもたちをどのように家族のもとに戻し、どのようなケアが必要であるかを議論した。すべての代表たちは議論と交渉を通し、ワーキング・グループのメンバーと協力した。フランスの代表は保護の観点から、難民キャンプにおける様々な犯罪を挙げた。難民キャンプでは、子どもと大人を対象に、誘拐、強姦、性差を理由とする暴力、軍隊への兵員募集などが行なわれている。彼女は子ども兵を禁止すべきだと主張し、ユニセフによる「こどもは兵士じゃない」キャンペーンを兵員募集や紛争における子どもの利用を防ぐのに役立つ成功例であると述べた。

(3 頁へ続く)

(3 頁から続く)

コスタリカ共和国の代表は、難民の子どもたちが置かれた状況を改善する最善策は、彼らに教育を与えるだけでなく、子ども兵士の問題について教師を教育する必要があるとした。学校の増築は必ずしも問題解決にはつながらないが、良い教師は子供たちの需要を満たし、さらに健康管理にも貢献できるだろうという。それが問題解決の方法だとコスタリカ代表は述べた。



### 安全保障理事会(SC)

午前中のセッションは国連経済社会理事会(ECOSOC)の韓国代表のスピーチから始まった。というのも、この会議の議題は安全保障理事会のメンバー国以外にも関連があるからだ。韓国は朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と隣国関係にあり、同国に対し、恐怖心を抱いている。韓国代表は、国際社会に対し、いま状況は重要な分岐点に差し掛かっていると主張した。同代表はさらに、北朝鮮は大量破壊兵器の研究を行い、自国の国民を困窮に陥れているので、制裁を加えることを要求した。会議中、米国とロシア、ニュージーランド、ウルグアイ、中国は北朝鮮の状況を議論する6カ国協議開催の重要性を示した。また、ベネズエラはウクライナやイギリスが協力する2017年北朝鮮再建安全保障計画を紹介した。何度か公式協議が行われたあと、アンゴラはその計画に肯定的であると主張した。ほとんどのスピーチは朝鮮民主主義共和国に対する立場によって三つ内容に分かれた。



午後のセッション III では英国は中国、ロシア、エジプト、そしてウクライナと行動を共にした。アンゴラは2017年北朝鮮再建安全保障計画を国際平和と地域の安全保障のための強固な、かつ公平な対話を生み出すために実現させたいと主張した。ロシアは北朝鮮の制裁には賛成しないと述べた。夜のセッション IV までに六つのワーキング・ペーパーが議長に提出された。ニュージーランドは、北朝鮮に対して制裁を加えることを目的に8カ国協議を開催し、北朝鮮を議論に復活させ、北朝鮮国民に人道的援助を施す道を開くとした。米国は公式協議のスピーチで、6カ国にマレーシア、モンゴリアを加えた八者協議についてのワーキング・ペーパーAと地域対話についてのワーキング・ペーパーBがうまく一本化されたと述べた。それはその後、決議草案として提出された。

### 経済社会協議会(ECOSOC)

午前のセッションは点呼で始まった。チリのスピーチで始まり、11カ国が三つの公式協議でスピーチを行った。チリは回復力ある社会を作る重要性を説明し、教育施設のインフラを整える必要性を示した。その後パナマ共和国による中断を求めるモーションが可決され、代表たちは60分間、ワーキング・グループを作るのに費やした。公式協議はブラジルのスピーチで再開された。ナイジェリアは国民に焦点を当て、ペルー共和国、アルゼンチン、パナマ共和国のワーキング・グループに加わり、主に教育問題に取り組んだ。南アフリカ代表は、「緒方貞子さんの昨日のメッセージにあったように、地球的に考え、地域的に実践しよう」と述べた。彼女はさらに、「教育は世界を変えるもっとも強い武器である」というネルソン・マンデラの言葉を引用し、政府に未来への投資を求め、子どもたちは取り残されてはならないと言った。

午後のセッション IV では、代表たちは、ワーキング・ペーパーを強固な内容とすることに取り組んだ。ワーキング・グループは、インフラ、教育、防災、ジェンダーの異なるテーマに取り組む四つのグループに分けられた。例えば中国は、防災のためには情報の共有が重要だとし、データベースの必要性を訴えた。実際、21カ国がこのアイデアに賛成し、木曜日に提出されたワーキング・ペーパーの中で最も支持を集めた。その後、白熱した議論は午後10時まで続いた。

(4頁に続く)

(3 頁から続く)

セッションはオーストラリアのスピーチで始まった。オーストラリアは教育、環境、そして女性問題についてほかの八つの国と共に取り組んでいた。彼らはその目標を達成するためにほかの代表たちと協力する意思を見せた。その後アフガニスタンが情報の欠如について警告し、警告システムを最新化しなければ多くの国が深刻な打撃を受けると説明した。その後その後アシスタンス通信技術訓練 (ACTT) と同国が呼ぶ各国の安全性のレベルをあらゆるレベルで改善する計画の有効性を説明した。そして「情報を伝えることはとても大事なことだ。ACTT のようなプログラムで救える命はたくさんある。皆で協力しなければならぬ」と強調した。その後、60 分間の非公式協議に入り、代表はワーキング・ペーパーの作成に力を注いだ。



続く公式協議はベルギーのスピーチで始まった。フランスは米国、スイスなど多くの国と国際的な災害後精神回復プログラムに取り組んだ。彼らは心的外傷後ストレス (PTSD) などの精神疾患を治療するためのカウンセリングによって自然災害の被害者を助ける重要性を示した。

様々なグループが、ワーキング・ペーパーを作成するため、二大グループを含む、四つのワーキング・グループを作った。二大グループの一つは教育と防災意識、ジェンダーの問題に焦点をあてた。もう一つのグループは主に、インフラ、開かれた発展計画、気候変動、そして情報通信技術 (ICT) の問題に取り組んだ。

## 国際的な高齢化問題への挑戦

神戸市外国語大学法経商コースの中嶋圭介准教授は、我々は今すぐ高齢化社会の問題に取り組まなければならないと述べた。中嶋准教授は、24 日に開かれた NMUN に参加する教員向けの講演で、我々は高齢化の予想値を真剣にとらえ、それを基に我々が取り組む対象を決めていかなければならないと強調した。中嶋准教授は「どの分野、地域、そして世代に焦点を当てるかを、決めることが我々の使命です」と述べた。年齢曲線の裏側に潜む二つの影響である、出生率の低下と長寿化について説明した。2005～2010 年における日本の出生率 (女性一人あたり) は 1.3 で、世界で最も低い。また高齢者の人口が世界でも最も大きい国でもある。この傾向はほかの先進国にも当てはまる。

さらには、日本の誕生時の平均寿命は世界でもトップで、女性が 86 歳、男性が 80 歳となっている。それにドイツ、イタリア、スペイン、韓国が続いているが、これらの国々は伝統的家族制度と独特の文化を有している。女性が社会で働くのは難しく、そのような社会では出生率が低くなる傾向があるのだと中嶋准教授は言う。

日本は現在、発展途上国に比べると非常に高い、1500 兆円に及ぶ資産を所有している。しかし、出生率低下に伴い、労働者や納税者は減り、高齢者のための出費は増えるであろう。将来的には海外の投資家や移民、日本人労働者に仕事を斡旋する外部委託に頼ることになるかもしれないと中嶋准教授は指摘する。協力を得るために発展途上国と新たな関係を築くことは大切である。というのも、開かれた国際経済は、国境を越えて高齢者を支えることで若者が自らを助けることを可能にするからである。

## インタビュー



## 人と交渉する熱意に溢れて

「私は競争心が強い人間です」とアマンダ・ナッシュさんは笑う。彼女はこれまでに 3 回模擬国連(MUN)に参加したことがある。彼女が模擬国連に参加し続ける理由は、人を説得することと、ほかの国を代表することが好きだからだ。さらに、人と交渉するために自分の考えを明確にすることで自分自身を知ることができる、と言う。彼女は MUN のことを模擬国連の活動に関わっていた姉から知った。米コネティカット州にあるニューヘヴン大学の四年生であるナッシュさんは、会議ごとに異なる議題について、異なる国を代表することが楽しいという。模擬国連世界大会(NMUN)に参加するのは初めてで、これまでとは全く違う冒険であり学びの経験であると感じた。GA においてアフガニスタンを代表していることに加え、ナッシュさんはチームの他のメンバーに助言を与える役も担っている。「代表団長として、会議で賞をとれるようチームを引っ張りたい」と彼女は言った。それも可能かもしれない。というのも、彼女のチームのメンバーは皆、過去に模擬国連に参加し、経験を積んでいるからである。

## 競争心を出すべきか、出さざるべきか

ナディーン・ギヴォヴィッチさんはチリのサンディアゴ大学の学生で、GA でエジプトを代表している。チリからの参加者は彼女のほかに 14 人だったが、彼女の大学がチリ、そして中南米からの唯一の参加校である。ポジション・ペーパーのリサーチと執筆は困難を極めた。なぜなら、ほとんどの情報がアラビア語で書かれており、彼女には十分な知識がなかったからだ。彼女は自分とそのパートナーがほかの代表のように競争好きでなくてうれしかったと語った。この会議の目標は、競争好きになることではなく、異なる人々や多様な文化を学ぶことだ。そのおかげで彼女は会議中、自信を持つことができた。この会議の経験を通して学び続けるという、生涯の目標に向かって動いている。



## 普遍的アプローチの目標に近づけるために

アザーデ・エスター・カカヴァンドさんはドイツのエルフルト大学の学生で、UNHCR でペルーを代表した。彼女は大学のゼミの一環で NMUN に参加した。ゼミの期間中にいくつかの大会に参加したがこの大会が最後で最大の大会であった。ドイツから遠く離れているため、NMUN への参加は必須ではなかった。しかし、彼女は現在トルコのイスタンブールに留学中で、ドイツからと比べると近いので、カカヴァンドさんはこの機会に日本へ行ってみようと考え、参加した。最初のセッションで自分が希望していた議題が設定され、ワーキング・グループ作りが進む。彼女はできるだけ多くの国と協力して、議題の分野で普遍的アプローチを生み出したいと考えている。



## 新しい挑戦

ハワイ・パシフィック大学から来たアンドレア・ボイアスとシャロン・マクアランは ECOSOC のボツワナ代表で、今日と昨日の出来事を振り返った。スピーチの後アンドレアは議長に謝意を示した。「スピーチをするのは初めてで、とても緊張した。でも議長は常にアイデアを膨らませたり、いろいろな観点からアイデアを得たりする手助けをしてくれた」とボイアスさんは言った。マクアランさんは会議の目標について述べた。「私の専攻は生物学で議題には関係ないが、科学を学ぶ者として政治と UN の任務について概観しておくことは、人がどう扱われるべきかを理解するのに大切なことだった」と言う。「だから人が適切に扱われるように努めたい」とマクアランさんは続けた。



## ジャズ発祥の地としての神戸

阿部弘果

ジャズの発祥地、米ルイジアナ州ニューオーリンズは欧州やアフリカなどからの様々な人種によって構成される民族の混在地であるから、彼らの文化が容易に融合したであろうことは想像に難くない。ジャズはこの文化融合が生み出したものの一つで、アメリカ音楽の要素である讃美歌、労働歌、ゴスペル、ブルース、そしてラグタイムとアフリカ音楽特有のドラム音を合わせたものである。

日本におけるジャズ発祥地については諸説ある。神戸であるとする説は、1923年にプロのジャズバンドが神戸で結成され、日本で初めてのジャズコンサートが開かれたことに由来する。そのため神戸ではジャズを楽しむ機会がたくさんある。



北野坂には夕食とともにジャズの演奏を楽しめるレストランやバーがいくつかある。若者の間でジャズを広めたいというオーナーの思いから、誰もが入りやすい雰囲気が漂う店もある。三宮界限には、ジャズをテーマにしたカフェもあり、スウィング音楽を聴きながらコーヒーが楽しめる。

「jam jam」もそのひとつで、元町駅近くのビルの地下にある。店内はクラシックなインテリア装飾がなされている。店長厳選のジャズがステレオスピーカーから大音量で流れてくるのが、まるで生演奏を聞いているような気分させる。座席はスピーカーの近くで音楽を楽しむ席と同伴者と会話を楽

しむ席に別れている。店のオーナーはジャズのディスクジョッキーで、店内にある彼のレコードコレクションから選ばれた曲が流れている。

20代後半の女性のグループから、50代の中年男性、30代のカップル、ギターを背負った若者まで、老若男女問わず、すべての世代の人がこの店を訪れ、ジャズを聞きながらのティータイムを楽しんでいる。このカフェでは、コーヒーや紅茶、アルコール類そしてジュースといった飲み物のほか、ホットドッグやサンドウィッチ、店員手作りのシフォンケーキなどの軽食も提供している。またこの店の少し独特なものとして、トイレにゲストブックがあり、コメントが書けるようになっている。

アニメとジャズが好きな方には、アニメ「坂道のアポロン」がおすすめだ。あらすじは、西見薫が父親の転勤で九州地方の高校に転校し、そこでジャズバンドのドラマーである川淵千太郎と出会う。薫は小学校からピアノを習っており、千太郎に触発されジャズに魅せられていく。薫は人付き合いが下手であったが、他人と一緒に音楽を奏でることを通して人とかかわることに楽しみを見出す。プロのバンドの演奏によるパフォーマンスシーンは必見だ。



**Jam jam** 電話: (078) 331-0876

住所: 650-0022 神戸市中央区元町通り 1-7-2

ホームページ: <http://www.jamjam-jazz-kobe.com/>

## 神戸で見るとべきもの

塩谷広子

神戸は兵庫県の南部に位置する県庁所在地だ。日本で6番目に大きな都市である神戸には、見逃すのが惜しい、たくさんの観光地がある。日本に来る観光客の中には温泉を目的としている人がいる。驚くことに、神戸の有馬温泉は日本で最古の温泉の一つで、新神戸駅から電車で30分ほどの場所にある。有馬温泉は昔から皇族や貴族から愛されてきたので、

ほかの温泉と比べると値段

が高いという人もいる。しかし、旅館に宿泊する必要がない日帰り旅行では良心的な値段で楽しめる。

旅館はホテルみたいな宿泊施設である一方で、伝統的であり、ホテルとの大きな違いは、サービスの質の違いが挙げられる。食事は宿泊客の部屋で提供され、宿のスタッフが小まめに部屋を訪れるため、スタッフとの会話を楽しむことができる。また布団の支度までしてくれることも特徴である。温泉に入る際には守るべきルールがある。最も重要であるのは、刺青のある人は入浴できないことである。また、衣類

は一切身につけてはならず、浴槽に入る前に体を洗わなければならない。浴槽に飛び込んだり、潜ったりしてもいけない。タオルや石鹸類を浴槽につけてもいけない。泳ぐことも禁止だ。入浴はリラックスするためのものである。水温は40~43度で、肌によいとされるミネラルを豊富に含んでいるので、温

泉から出た後にはシャワーで流さないことをお勧めする。

有馬温泉の近くにある六甲山も神戸に

いる間に行くべき場所だ。六甲山は日本三大夜景の一つと認められ、「100万ドルの夜景」と呼ばれている。六甲ケーブルを使えば往復1000円でいことができる。

秋季は六甲の近辺にある神戸植物園で紅葉を楽しめる。日本だけに育成する植物も見ることができる。入園料は無料で開園時間は朝の9時から夕方5時まで。

神戸ではイルミネーションも行われており、12月上旬の「神戸ルミナリエ」は特筆すべきだろう。このイベントは1995年1月17日に

起こった阪神淡路大震災の犠牲者を追悼するため、同年に始まったものである。

